

供覽

軍務局長

第三課長

南河部長

厚田 11. 3. 23 田親

海

軍

三月廿四日

大正十一年三月二十三日

省副官

臨時南洋防備隊參謀長宛

口列島ニ飛來セルニ飛行機ニ関スル件

大正十一年三月廿三日

本件ニ関シテ、不取敢 昨年十月 該ニ飛行機ニ米

國國籍ヲ有スモノトヤ否ヤニ就キ米當局宛照會相

成リ居リシ處今般 別代甲辨通、回答ニ接シ別

代乙辨通 外務省宛照會相成 候條、此代

脚了知 呈 相致度

右通知

別代 五 様

官房機密第三六三號

別代 甲辨

改三後 密 第三六三號

和田少代 八四二五

別代 乙辨

官房機密第三六三號

三月廿四日

3-23

0567 (A)

軍務局(南)

11. 3. 23

秘

起案郵紙

番號

大正十一年三月六日起案

起案者
捺印

3
田

三月十四日發付

發付掛
捺印

發付後起
案者捺印

主務 軍務局長

第三課長

大臣

副官

次官

岡田

參事官

第一課長

局員

11.6
3.田

法務局長

局員

局員

山田

軍令部

次長

第三班

第三班

大正十一年三月十四日

大臣事務

外務大臣宛

ロソ島ニ飛来セル飛行機ニ関スル件

官房機密第三三三番

軍令部	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
						3 7							五月十日	受月日發付

0568

三今軍

本年二月十七日附歐三機密第一三號ヲ以テ本件
 ニ對スル米國側回答ニ南シ御通牒ノ趣ヲ承取
 ニ依リ客年九月三日ロタ島ニ飛來セシ飛行機
 ハ在ガム島米國海兵用ノモノタルコト明瞭ト相
 成候
 右回答中ニハ該飛行機ハロタ島附近ヲ飛行セシ
 様記載サレアルモ臨時南洋群島防備隊ヨリノ其
 ノ後報告要領ハ左記ノ通ニシテ之ニ依レ
 ハ該飛行機カロタ島上空若ハ領海上空ヲ飛
 行セルモノノ如ク認メラル次第ニ候軍用航空機
 ヲ以テスル此種行為ハ彼我ノ間ニ誤解ヲ生セシ
 メ易ク延テハ國交上紛糾ヲ醸スニ立至ル概
 無之トセス此際米當局ニ注意ヲ具ヘ置クコトハ

将来ノ為ニモ必要ノコトト思料候條此儀御
了知ノ上米當局ニ申入方可然御取計相成度
右照會ス

追テ臨時南洋群島防備隊ヨリノ報告ニ依レ

ハ其後客年十月十九日正午ニモ飛行機一臺

ガム島ヨリ飛来ロタ島南端ニ接近ノ上引返

セシ趣ニ付申添候

左記

一、飛行機ハ當日午前十時五十分ロタ島南方

海上ヨリ飛来東海岸ヨリ北海岸ヲ經北西海

上ニ出テ島ノ西南端ヲ經テガム島方向ニ直

行ス

ニロタ島村落北西部海岸約三百米ノ空中ヲ

通過ノ際機上ヨリ三羽ノ傳書鳩ヲ放チ夕
ルモノノ如シ

三、右ノ内ノ一羽ト思ハルルモノヲ島民家屋上
ニ於テ捕獲セシトコロ

*Flying over Rota Island
every thing as usual, soon.*

ナル通信文ヲ推乃帶セリ

(14)

0571

資料館

軍務局

歐三機密第一三號

大正十一年二月十七日

原主修

第三課

海軍次官代理 岡田啓介 殿

第一課

口夕島ニ飛來セル飛行機ニ關スル件

本件ニ關シ客年十一月十日歐三機密第九三號ヲ以テ申進置候處今般在本邦米國大使ヨリ別紙寫ノ通り回答有之候ニ付右様御承知相成度此段申進候也

官房機密第一三三號



外務次官代理 田中 都

外務省 印

附屬添付 (已號用紙)

外務省

0572

移密部

軍務局

COPIE

EMBASSY OF THE

UNITED STATES OF AMERICA.

N° 85.

Tokio, February 13, 1922.

Your Excellency,

With further reference to Your Excellency's note of October 26, 1921, regarding an aeroplane which was reported as flying from the direction of Guam around the Islands of Rota on September 3, 1921, I have the honor to inform Your Excellency that I have received a reply from my Government on this matter to the effect that the flight of an aeroplane near Rota, manned by United States Marines, was reported to the Navy Department at Washington as a matter of routine from the Island of Guam.

According to the report submitted by the Navy Department no special significance has been attached to this particular flight it being merely considered a routine flight by Marine fliers.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

Signed: Charles B. Warren.

His Excellency

Count Uchida,

His Imperial Japanese Majesty's

Minister for Foreign Affairs,

etc.,

etc.,

etc.

0573

軍務局

保第一四〇九號

大正十一年五月十九日

共五廿二

軍務局

靜岡縣知事 道岡秀彦

第三課

海軍大臣 加藤友三郎 殿

第二課

航空取締規則施行細則制定ノ件

航空取締規則施行細則同取扱心得別紙ノ通
制定致候條此致及報告候也

海軍系

0574

静岡縣令第...三三號

航空取締規則施行細則左通定ム

大正十一年五月十六日

静岡縣知事道岡秀彦

航空取締規則施行細則

第一條 航空取締規則第十八條ニ依リ航空機離陸

着陸場ヲ設置セムスル者ハ左ノ事項具シ知事

ニ願出許可ヲ受クニ 但シ一時間ヲ設置スルモニ在リ

テハ第六號ノ事項ヲ省略スルコトヲ得

一 位置

二 面積

三 恒風位

0576

四、使用期間

五、離陸着陸場及其附近之要圖（二通）

六、離陸着陸場ト附近ト交通上ノ連絡ヲ表示スル

圖面（三通）

七、航空自的の方法期間又ハ年月日時

八、航空機ノ型式製造所名及堪航證明書寫

九、操縦士ノ住所氏名年齢竝操縦士免狀ノ種類

十、航空ノ區間及距離

前項第八號乃至第十號ノ事項ヲ変更シタルハ速ニ知事

ニ届出ツヘシ

第三條 航空取締規則第三條ノ規定ニ依リ航空セトスル者

ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ

一、航空機ノ型式及製造所名

0577

二 操縦者ノ住所氏名及操縦士免状種類
三 航空ノ場所及航空期間

第三條 航空取締規則第十四條規定ニ依リ操縦士非
スニテ航空機ヲ操縦セムトスルトキハ左ノ事項具シ知事ニ
願出許可ヲ受クヘシ

一 操縦者ノ本籍住所氏名年齢

二 航空機ノ型式名稱

三 航空ノ場所及航空期間

第四條 本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ願届ハ所轄警察
官署ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

靜岡縣知事之條是也

警察部

警察署

警察分署

航空取締規則施行細則取扱心得

大正十一年二月五日

靜岡縣知事 道岡秀彦

航空取締規則施行細則取扱心得

第一條 航空取締規則施行細則第一條ノ願書ヲ受理スル

トキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ

一 位置ハ交通便ヲ有シ周圍開濶ニシテ將來建築物

等ニ依リ包圍セラルカ如キ虞以ナキヤ

0579

二、面積が 500×100 メートル以上、長さ及幅が有し土壤
平坦ニテ軟弱ナラザルヤ

三、不規則ナル風又ハ強風等、影響を受けルコトナキヤ

四、航空目的及方法ノ適否

五、離陸着陸場境界ト觀覧者場所ト間ニハ少ナクモ
百メートル以上、幅員地帯ヲ有スルヤ

六、其他参考事項

第三條、航空取締規則施行細則第五號、要圖ハ飛行場
ノ周圍五百メートル以内ニ於テ航空障礙ト為ルキ隆
起セル物件（電線、煙突、著樹、建物等）アルキ之ヲ
圖示セムコト

第三條、航空取締規則第十八條及第二十五條規定ニ依ル

申請書受領後其ノ狀況ヲ速ニ報告スル

0580

第四條 航空機墜落其他重大ナル事故發生タル場合
ハ發生地警察官署ニ於テ直ニ其概要ヲ航空局
ニ電報シ且傷害救護其他必要アルヲ除ク外現場ヲ
保存セシムル前項場合ニ於テ現場保存困難ナル部
分ハ寫真撮影其他ノ方法ニ依リ原因調査ノ參考資
料ヲ蒐集保管スル

第五條 航空取締規則施行細則第一條但書ニ該當
スル場合ニ於テ其都度所要時間航空成績其他ノ
情況ヲ調査シ取締狀況ヲ具シ報告スル

0581

軍務局

軍務局

臨航部 第五〇三

大正十一年三月十日

第三課 臨時海軍航空術講習部長田尻唯二
軍務局長堀内三郎 殿

陸軍本部長

横須賀航空術飛行場附近航空高圧電線架設費件
去三月四日臨航部第五〇三号ヲ以テ照會貴部置候首題ノ
件關シ横須賀鎮守府建築部ヨリ別紙寫入通経費見
積通知有之候ニ就テ右支出方可然御配慮ヲ得度
右照會ス

(別紙三葉添)

軍第〇四〇號二

海
本
3.14
接受
0582

陸軍省附用紙

陸軍

又件
首題
經費見
得度

三三三

軍務局



0582

紙用箋附省軍海

大正十一年三月十四日

海軍省軍務局

建築本部

兼文移牌付臨設備支才五号ニ付元至貴見
結切書ノ通照会右ノん条ヲ返此取計テ得云

0583



航空隊假設動力線(配電室野島間)移轉委任取書

一 全貳千四百圓也

設計額

外算外解毀杖使用價格

全九概向八概

内

譯

名	稱	單位	數量	單價	價格	用途其他
松丸太	長三丈 末口六寸	本	四	四六〇〇〇	一八四〇〇〇	電柱用
松丸太	長三丈 末口五寸	本	二八	二五〇〇〇	七〇〇〇〇〇	左
松丸太	長四丈 末口五寸	本	三二	八〇〇	二五六〇〇	根柵用
松丸太	長三丈 末口四寸	本	三〇	五〇〇〇	一五〇〇〇〇	枕用

0584

鐵腕水 長六尺 方寸五分	全 長五尺 方寸五分	三重碑子	茶目碑子	ストラップ 全	鐵夏標 長四寸半 五分厚	全 長十寸 五分厚	アームタイ	BS四番 第二種銅線	BWG八番 重鉛鍍鉄線	BS十四番 細巻銅線
本	本	個	個	枚	本	本	枚	尺	貫	貫
四	三一	七二	四五	九	一四五	三五	七〇	二〇〇	五〇	三
六〇〇〇	三〇〇〇	七〇〇	六〇〇	二〇〇	一五〇	二〇〇	三〇〇	〇八〇	二〇〇	四〇〇〇
二四〇〇〇	九三〇〇〇	五〇四〇〇	二七〇〇〇	一八〇〇〇	二九二五〇	七〇〇〇	二一〇〇〇	一六〇〇〇	六〇〇〇〇	一三〇〇〇
電線支持用	全	全	全	全	全	腕水取付用	腕水支持用	電線用	支線及雜線用	綁縛用

0585

計	雑費	人夫	電気職	電算外解散材供用 B5四番 カ三種銅線	百アンペヤ ケウチホルル	碍子型スリッチ 三三三 三三三	ソリダリニグ ペースト	ハンダ	メンテナンス	裸軟銅線
		人	人	尺	個	個	封度	貫	封度	貫
		二〇〇	二〇〇	九八〇	一〇	五	五	二	一〇	二
		一六六〇	二二二〇	〇一〇	一五〇〇	二〇〇〇	八〇〇	五〇〇〇	八〇〇	四〇〇〇
	二四〇〇〇	三七五〇	三三二〇〇	四四四〇〇	九八八〇〇	一〇〇〇〇	四〇〇〇	一〇〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇
		左	工事用	電線用	左	保安用	左	接続用	被包用	接続用

0586

算外
用解
杖

九
八
ハ
〇
〇

0587

軍務局

第三課
第一課

臨航議支第 五 號

大正十一年 三月 四日

建築本部



第一號



臨時海軍航空術講習部長田尻唯

軍務局長堀内三郎殿

横須賀航空隊飛行場附近架空高压電線架設替件

横須賀航空隊ニ新設中七飛行場ノ埋立地均シ既成

部ハ不充分十カラテ講習員ノ飛行練習ニ適スモノト

認メ去月二十七日ヨリ艦隊航空作業講習ヲ開始致候

應練習用トシテハ猶秋隘ニ過キ数件ノ場内地上小改修ト

共ニ揚南方或水都ヲ通スル架空高压電線(野島東

水道渡渡深作業用動力線)ヲ南方ニ遠クニ非レハ飛

軍第〇四〇號

〇

軍務局

0590

11. 7
3. 田村

11. 3. 13
授受

紙用調附省軍海

七件
決

大

那ハ飛
島東

小改修ト
姉鼓候

既成
件



海軍省
第七



0590

紙用箋附省軍海

大正十年三月七日

海軍省軍務局

建築本部以中

此件臨時役室の講字印ノ講字書地上不得止ト
認ル旨ヲ此取計相成存致云

0591

行練習ヲ行フ能ハサルヲ奉見致候

該電線ハ唐ニ中部ニ於テ在リ知ク飛行練習ヲ中止スル

已キキニ至ラシメ大至急架設替ノ必要アルノミナラス西部

ニ於テ建設中ノ航空船格納庫敷地ヲ横断シタル上

航空船出入地域ニ添フテ縦走シ東方陸上ニ於テハ氣球格納

庫ト飛行場間ノ氣球運搬及近キ將來可能ナルハ飛行

行機ノ東西方向ノ奔着ニ對シ大ナル障礙ヲナス事ニ

テ各部共近ク架設替ヲ行ハサルヘカラスル情況ノ下ニアル

事ニ有テ候存續須賀鎮守府建築部長ト協議ノ上

三月十日迄ニ完成ノ見込ヲ以テ附圖ノ如ク架設替ヲ實

施スルコトニ取計申候就テハ本件ハ非常ノ急ヲ要スルニ

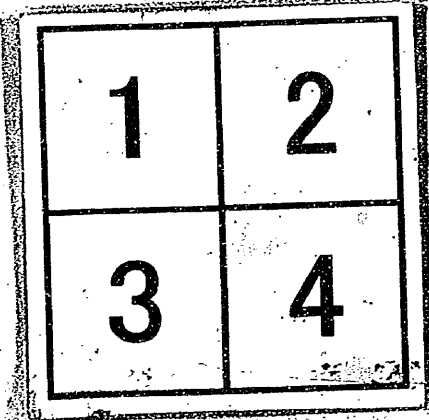
ツキ不取最實施方取計候次第御了承上右架設
替ニ要スル經費トシテ實費確定次第照會可致候ニ付
支出方予メ御取計ヲ煩度
右照會ス

(別紙附圖一葉添)

(終)

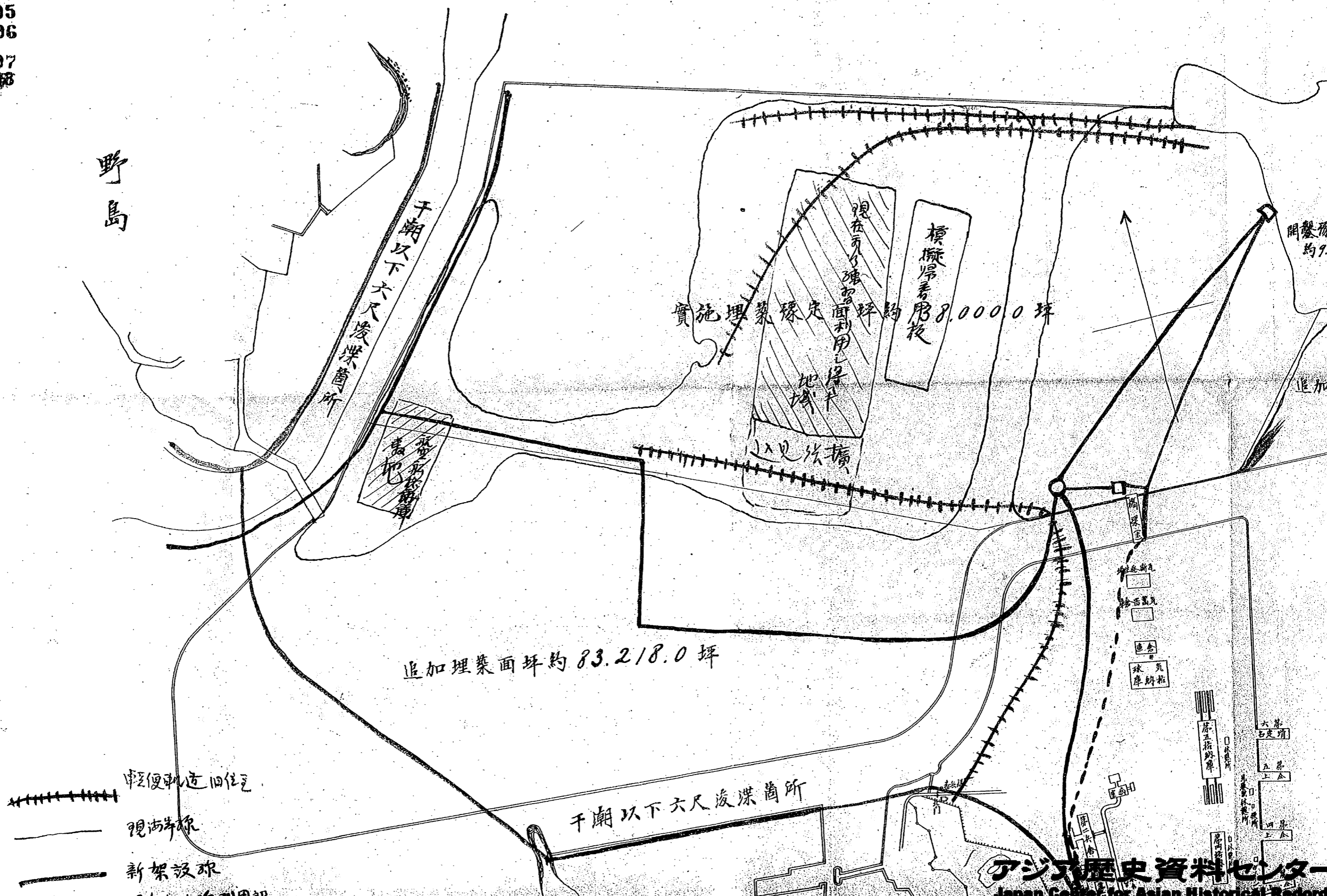
0593

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0594
0595
0596
0597
0598


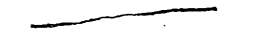

野島

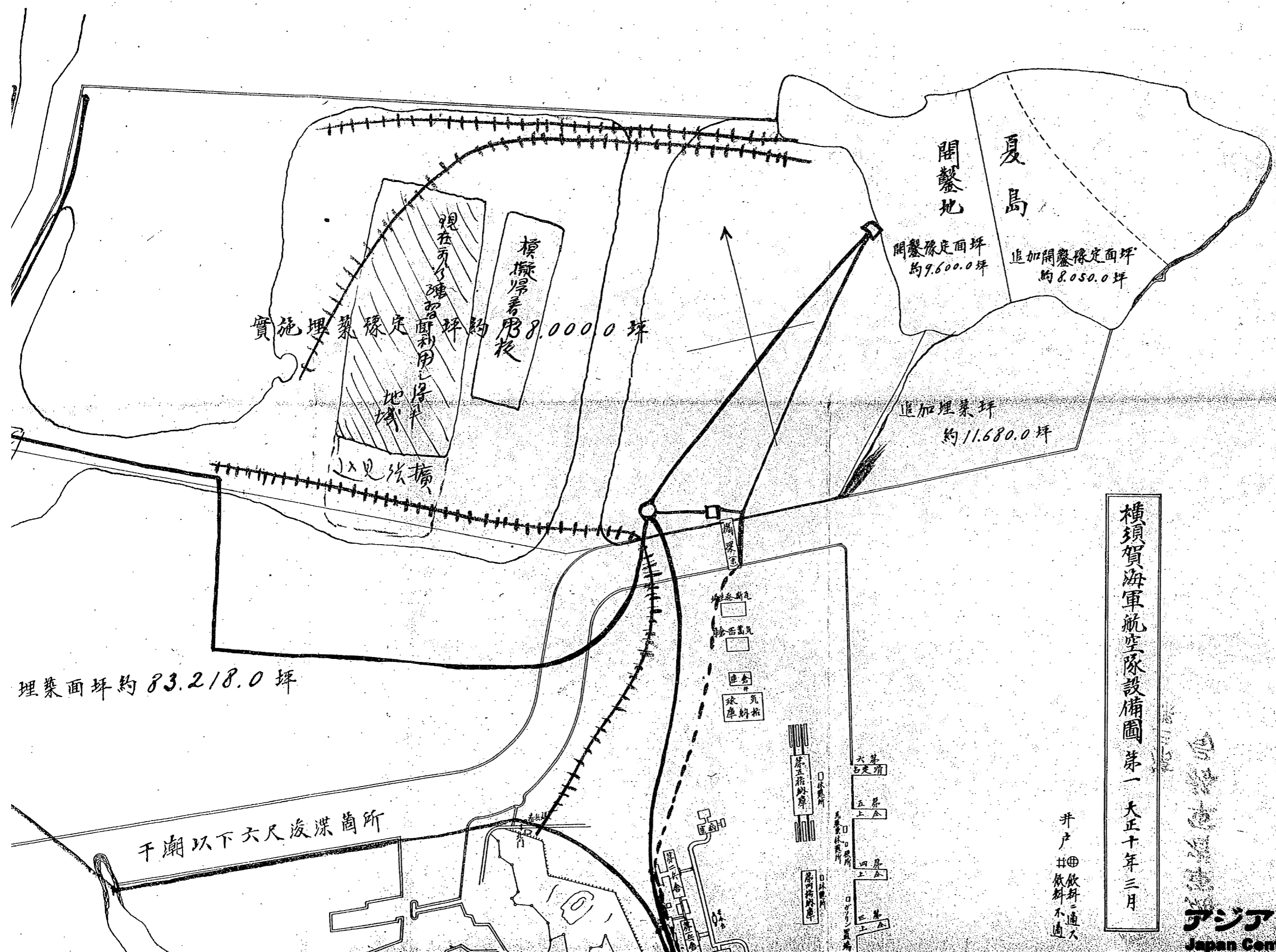


追加埋築面積約 83,218.0 坪

模範用着脱校
現在より確保面積約 8,000.0 坪

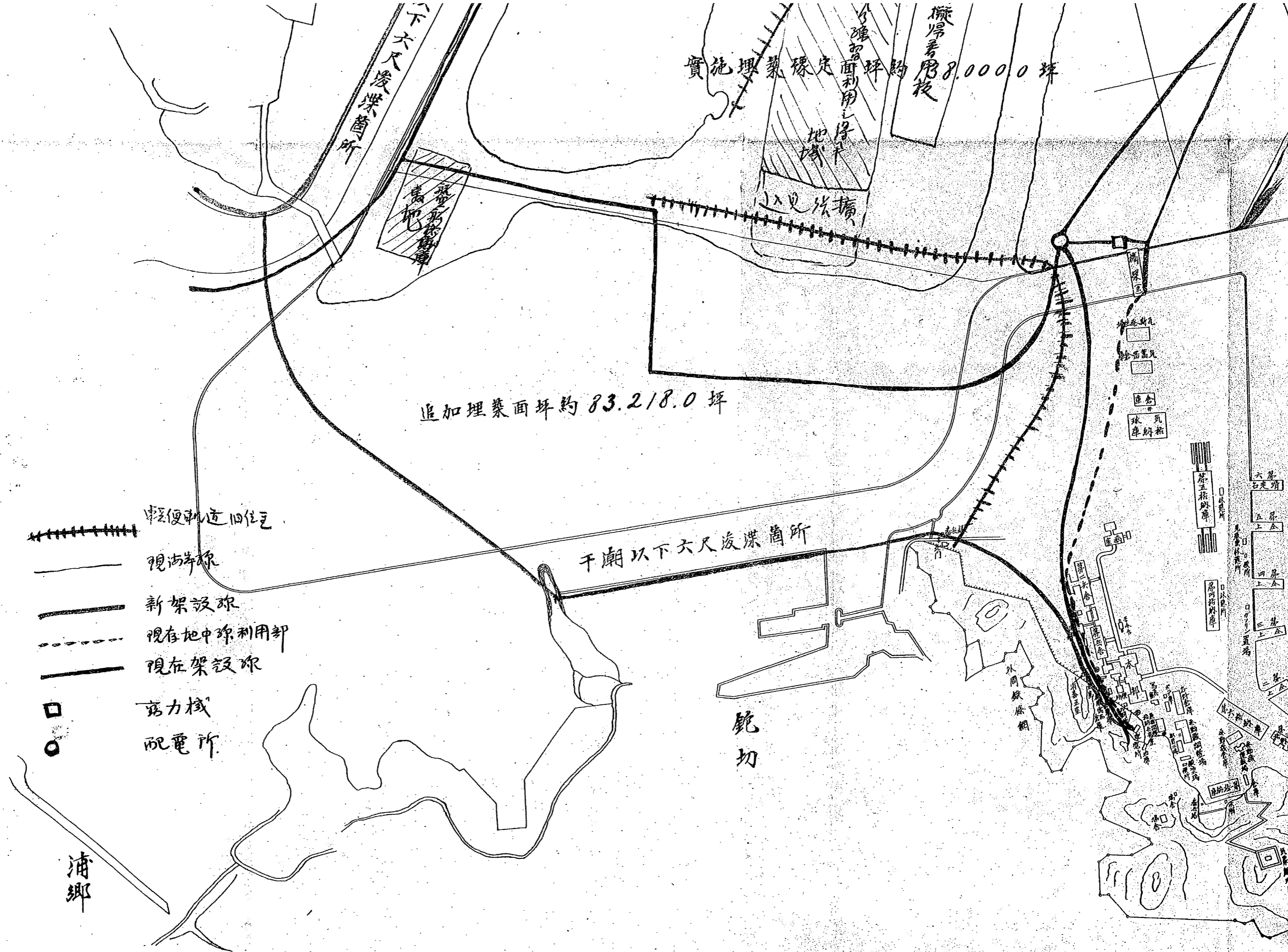
干潮以下六尺浚渫箇所

 輕便軌道旧位置
 現海岸線
 新架設線

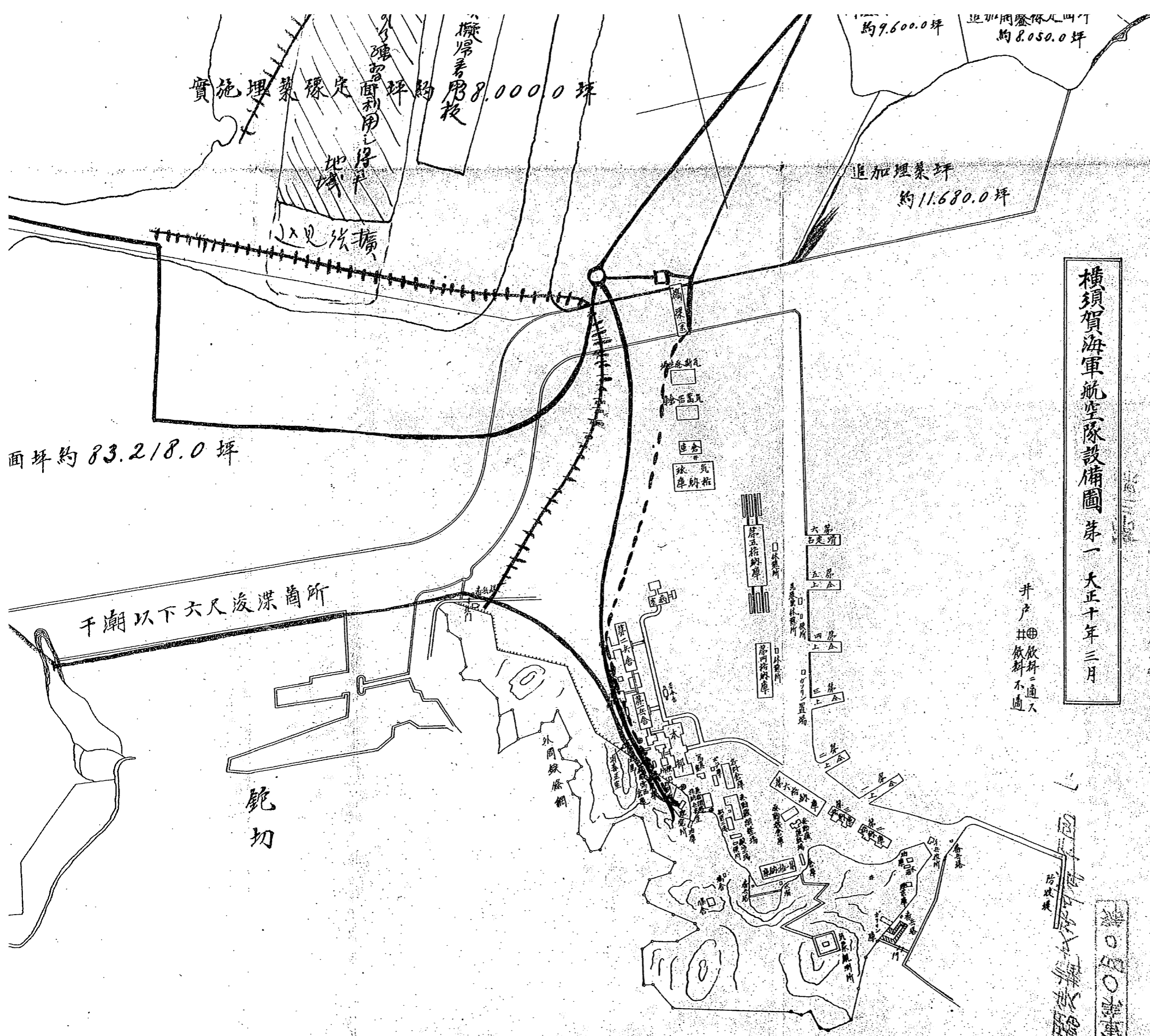


横須賀海軍航空隊設備圖第一 大正十年三月

海軍省



- +++++ 輕便軌道旧位置
- 現海岸線
- 新架設線
- - - 現存地中線利用部
- 現在架設線
- 電力機
- 配電所



横須賀海軍航空隊設備圖 第一 大正十年三月

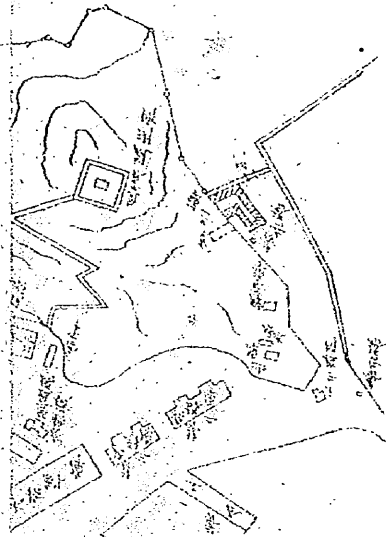
井戸 飲料不通

02d8

0594
0598

軍第〇四〇號

臨航講支第五種附圖



圖六六〇
海軍省軍務局
第三課

海軍省軍務局
第三課

海軍省軍務局

眞島 皮師 同 右	宮下 法務官 同 右	鈴木 軍醫中將 (上二一〇四) 旅館 丸 家
-----------	------------	------------------------

1	七前	七後	七後	19	岡本 金一	第二朝集所
---	----	----	----	----	-------	-------

約11980'0寸

第三課

陸軍飛行場面積

一一・三・二〇受

長名	稱	場所	面積	摘要
航空第一隊飛行場	各務原	二〇六一・七五五	由陸軍省第七方使用(現九一)	
航空第三大隊飛行場	八日市	四二四・五二八	由陸軍省第七方使用(現九一)	
航空第五大隊飛行場	太刀洗	三四〇・七四八	由陸軍省第七方使用(現九一)	
航空第五大隊飛行場	立川	約四五〇・〇〇〇	兵營敷地ヲ含有ス	
航空第六大隊飛行場	平壤	三九五・五七八		
陸軍航空學校	所澤	五七五・〇四八		
同 明野分校	洲野	三〇四・三〇〇		
同 下志津分校	四街道	二三五・〇〇〇	兵營敷地ヲ含有ス	

11. 3. 20 田積

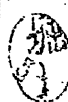
飛行場

0599

秀印
田積

陸軍

軍務局



第三課

第一課



大正十年三月廿四日

發布濟一

三二二

事務局長

建率本中長

横須賀及宜保地ニ関スル件

女件ニ関シテ大正十年五月三日付事務局長書オ。三ノ三ヲ以テ又第
 々次才モ有之ルハ此講習ノ業實施ノ結果地盤ノ鉄壁未ダ充分
 土人爲飛込候ノ者若シテ先候大田山ヲ生スル付此際先候本程
 地盤相当ニ堅固ナル方至ルハ此配者又ノ様也

軍第〇五二一號

海軍

横造半葉十一行野紙

0601

軍務局

第三課

軍務局

大正十一年三月十七日

臨時海軍航空術講習部長 田尻唯

海軍省軍務局長 堀内三郎殿

横須賀部 奉命 二 伺 備 付 之 度 件

目下工事進行中ナル横須賀航空隊飛行場ハ

差當ノ精習作業實施ノ為メスチムロラノ

轉壓ノ必要トスルニ不構横須賀海軍建築部

ノモハ過重ニシテ使用ニ適ヤス且今飛行場ノ

土石累積ノ情態ヲ考フルニロラノ轉壓ニ

一旦完全ニ地固ヲ為シ免後ト雖モ時日ノ経過

軍第 〇 五 號

發給證書

第三課

0603

ト其ニ飛行機ノ緊着ニ對シテ危險ナル陥凹ヲ其
ノキハ明ニキテ常ニ飛行機ノ緊着ヲ安全ナクシ
トセハ將來更ニ復轉壓ノ必要アリ從テ適當重
要ノスナクシテ山ヲ有レ隨時兵員ノ手ニテ運轉々
壓スル下ニ甚ニ講習部存立中ノミナラス將來種類
質既空際トシテモ極ニ必要ナルコト、思考セシ候
ニ就テハ此際至急重量三噸内外ノモノ一佃備付
ケラル、操御配慮ヲ得度

右照會ス

終

0604

第三課

濟

横濱

五

五

大正十一年三月十八日

軍務局
三三三三

秋山横須賀海軍航空隊副長

大関軍務局負殿

飛行場東岸堤防ノ件

七件清

野島防砂堤工事中飛行場東岸堤防工事
見積計画ヲ最近建築部ヨリ本部へ提出セル筈
ナルカ該計画ハ不同意左記ノ如ク計画アリタキ旨申
述ヘタルモ予算ノ都合等ニ折リ合ハサレシモ一ナルモ
當隊トシテハ將來ノタメ此際隊案ノ如ク施行スルヲ必
要ト信スルニワキ熟ルハ御盡力ヲ得度

軍第〇五七號

飛行場

0605

右依頼ス

左記

外海ニ面シ比較的大且ツ最モ多キ風浪ニ曝露スル
場所ナレハ次ノ如クスルヲ要ス

(一) 特ニ堅牢ナルヲ要スルカ故コニクリートトスル事

(二) 波浪ノ打キ上ケルヲ防ク為メ外側ヲ湾曲セシムルコト

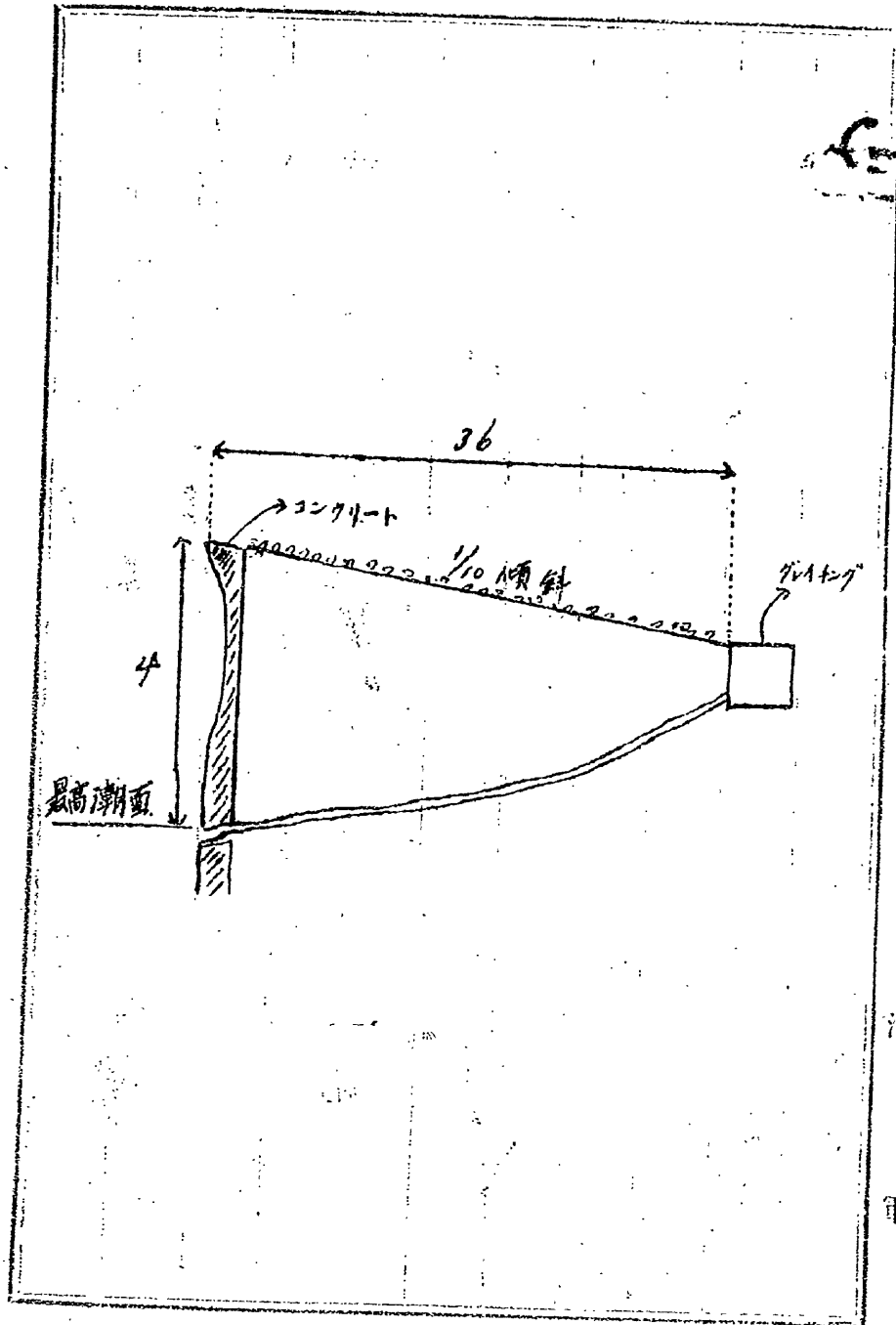
(三) 打キ込ミタル海水ノ為メ飛行場ヲ損傷スル事トナ

カラセラル為メ約 $\frac{1}{10}$ ノ傾斜トシ内方約三十六呎

ノ厚ニ水ハキノ為メ暗渠ヲ設クルコト

(四) 傾斜面上面ニ砂利ヲ敷クコト

0606



海軍

0607

秋

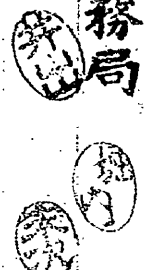
供覽

供覽



軍務局

軍令部一配



第三課
第一課

課長	甲
一	一
二	二
三	三
四	四
五	五
六	六
七	七
八	八
九	九
十	十

廣島縣

西條町南方平地

視察報告

昨系村上吳鎮守府司令長官 吳方面海軍航空隊

陸上飛行場トシテ西條町南方平地モ亦一候補地ス

御注意アリ大正十一年四月二日呈出張ノ序程特向

踏本且、結果所見概要左ノ如シ

一、西條町南方平地ハ金地状ノシテ飛行場トシテ使用得ヘキ

地積ハ黒瀬川ノ谷ヲ半内形ニ圍繞セル区域東ノ西約

千二百米南北約八百米ニテ約三十万坪トス

(明正印刷納)

0608

二此地吳ノ距ル北々東十五哩(直距雜)

吳一廣島、吳一内前川尻ノ距離モ異同距離アリ

三、該半内飛ノ地域ノ北半部ハ畑地(ニ毛作)ニテ南半部ハ水田ナリ

黒瀬川ハ當時乾水中ナリシカ其ノ河床ハ水田ヨリ三尺許低下ス水田ハ概ネ自製排水ニ依ルテ得

四、黒瀬川ノ該地域附近ニ於テ川幅約五間河床ハ大粒ノ赤砂ニシテ水流清澄ニ速捷ニ相違大ナリ

黒瀬川ハ諸川ノ合セ西條川トキリ南流ニテ廣瀨ヲ注グ
五、村民ニ三ニ就キ南ノ所ニシテハ半月形、北半部ハ反七八角田南半部ハ反七角田ナリ但シ賣買ハ稀ナリ

(明治印刷社)

六、半内形ノ北平部及北西部ハ人家較多ク概キ葦葦草
ナモ中ニ赤瓦葺トシテ住宅及白塗ノ土藏数棟アリ
半内形部ノ買収ニシテ移轉ト要スル人家自戸ノ整
ヘシ

七、買収面積三十万坪(坪五円)トシテ人家移轉輔傍等
ノ合々二百一万円見當ルヘシ
此以外ニ相場ノ地盛貴ノ多ス

八、該地ノ発行場トシテノ利不利ノ差々シハ
利点(一)廣島部外及内前川尻ノ平地ノ除ケハ吳側近ニ唯一
ノ平地ナリ

(明治印刷所)

- (一) 鐵道、便り山陽道、大略、接し
- (二) 造船、以テ有るを西條町、隣、接し

善点

- (一) 周圍、山丘、餘り、近ノ珠ノ地方、凡ト思ハル、備北、凡ト、并シ南北、廣、狭、小ナリ
- (二) 盆地、より、以テ、氣流、概シテ、不良ナル、レ、珠ニ、北西部、狭谷、ヨリ、スル、凡ク、盆地内、氣流、ノ、不規ナシ、ラ、レ
- (三) 海上ト、降、絶スル、以テ、艦艇ト、連絡、艦載、航行、概シ、厚、被、等ニ、至、大、ノ、不、便、ヲ、感、ス
- (四) 突、方面、ニ、出、テ、空、路、ニ、殆、ト、山、岳、地、上、空、ヲ、ハ、ル、ヲ

(明治印刷)

0611

不特著陸ニ可能ナル地島歟

(四) 廣水力電氣、高築高圧線場内ノ南北ニ通過ス之

扣敷設替ニ相當ノ補償ヲ要スレ

(六) 地價相當不慮ナシ

大前記地域ニ連リ其西南部、平地アルモ凡行場トシテ價

値ノ前者ニ劣ルモノアリ也

(一) 附近ノ山丘一層近キト

(二) 地形、起伏較大ナキト

(三) 縦横ノ要スル人家比較的多キト

(四) 凡行場トシテ廣サ、固係上是激川ヲ跨リ要スレ

(明治印刷)

陸
之カ處置ニ多大ノ工事ヲ要ス(オモト
五) 交通、物資供給上、便ハ前者ニ及リス

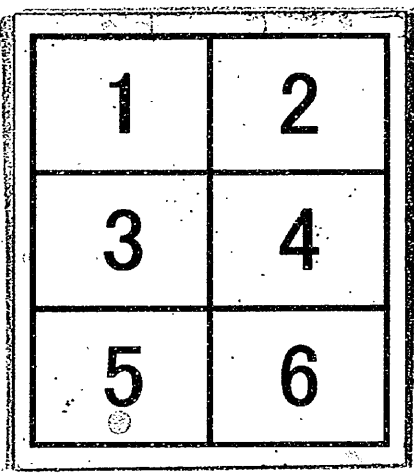
海
軍



(明正印刷)

0618

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1500x800
800x400 = 320,000

近附村原

0614

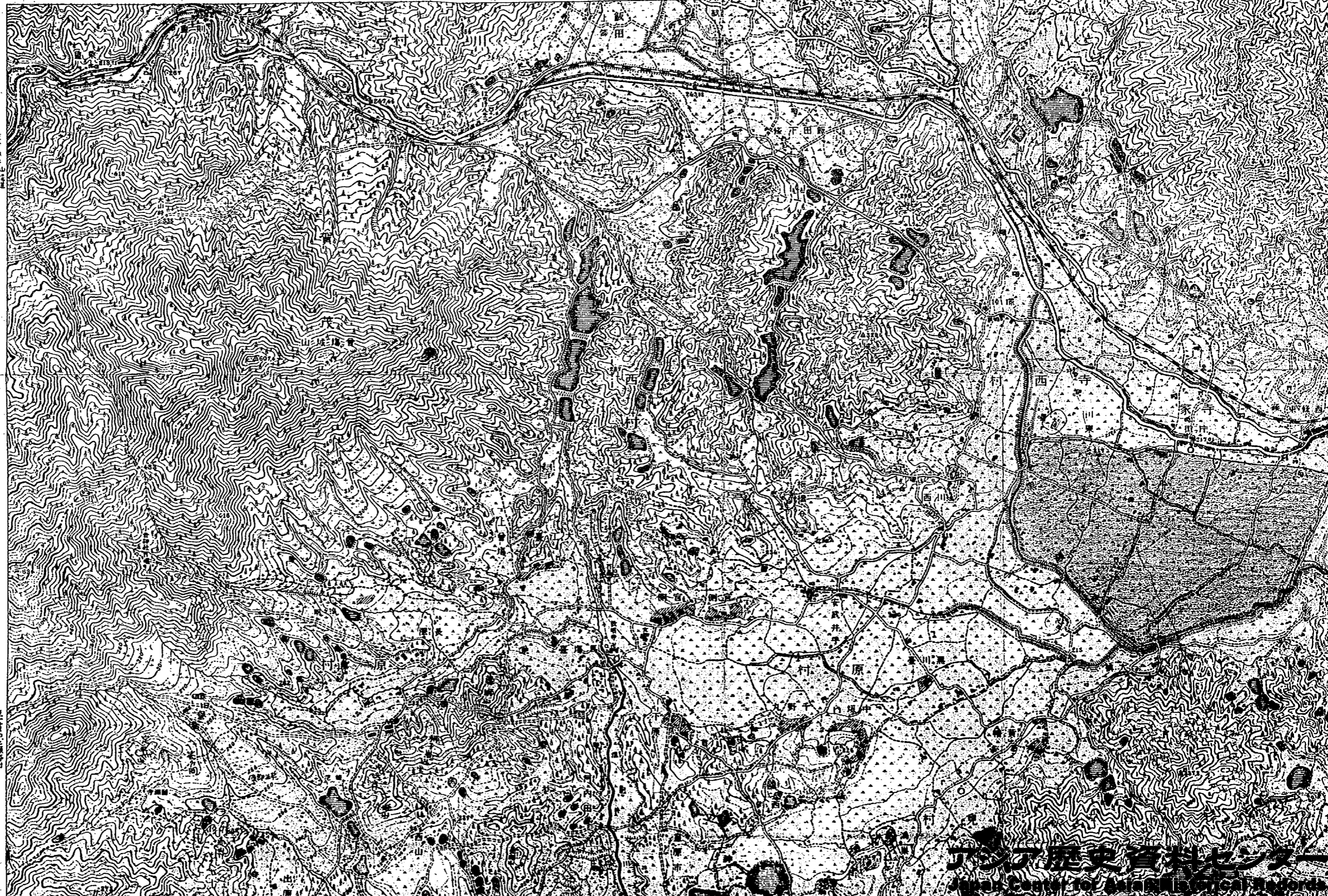
0615

0616

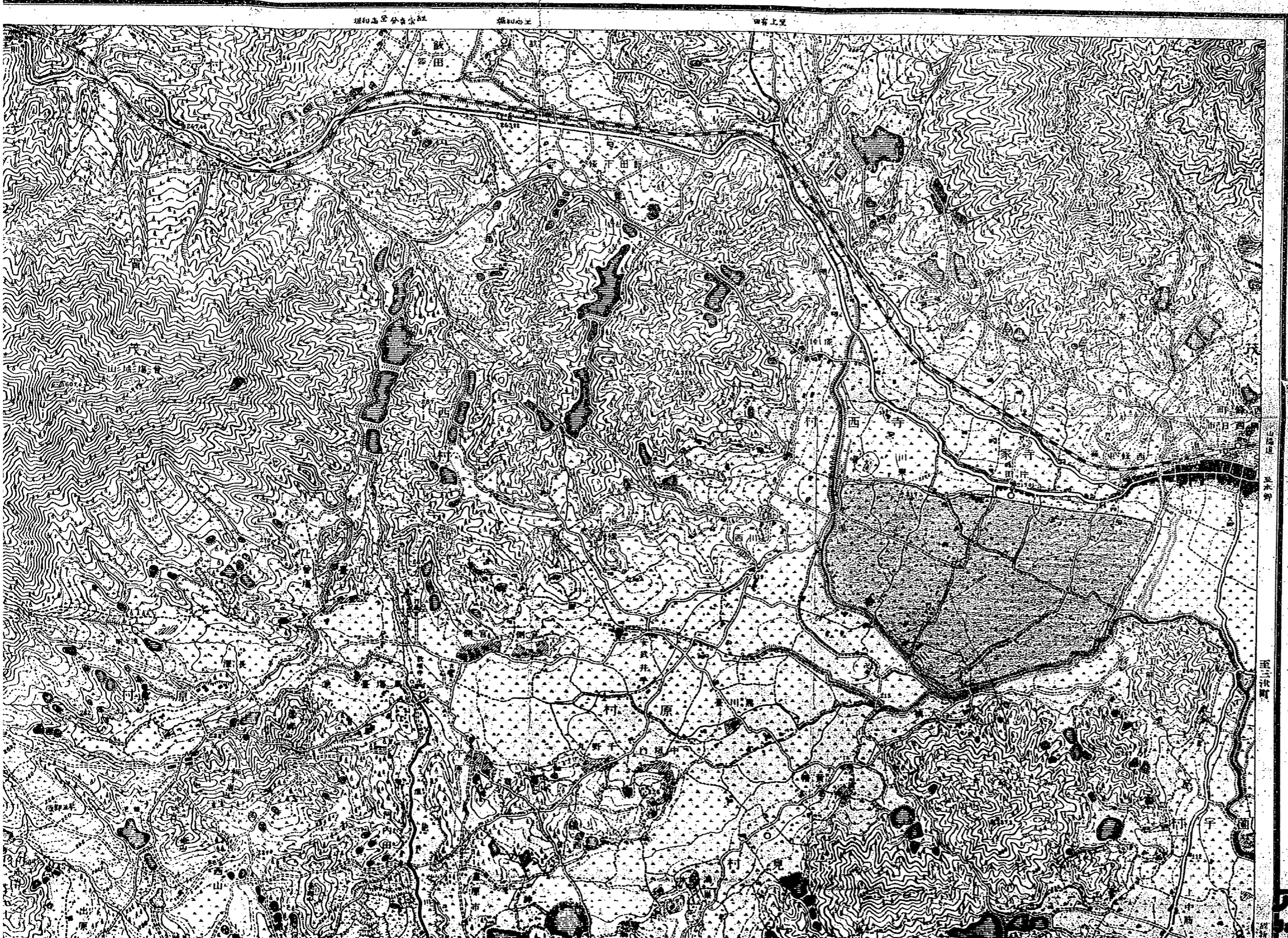
0617

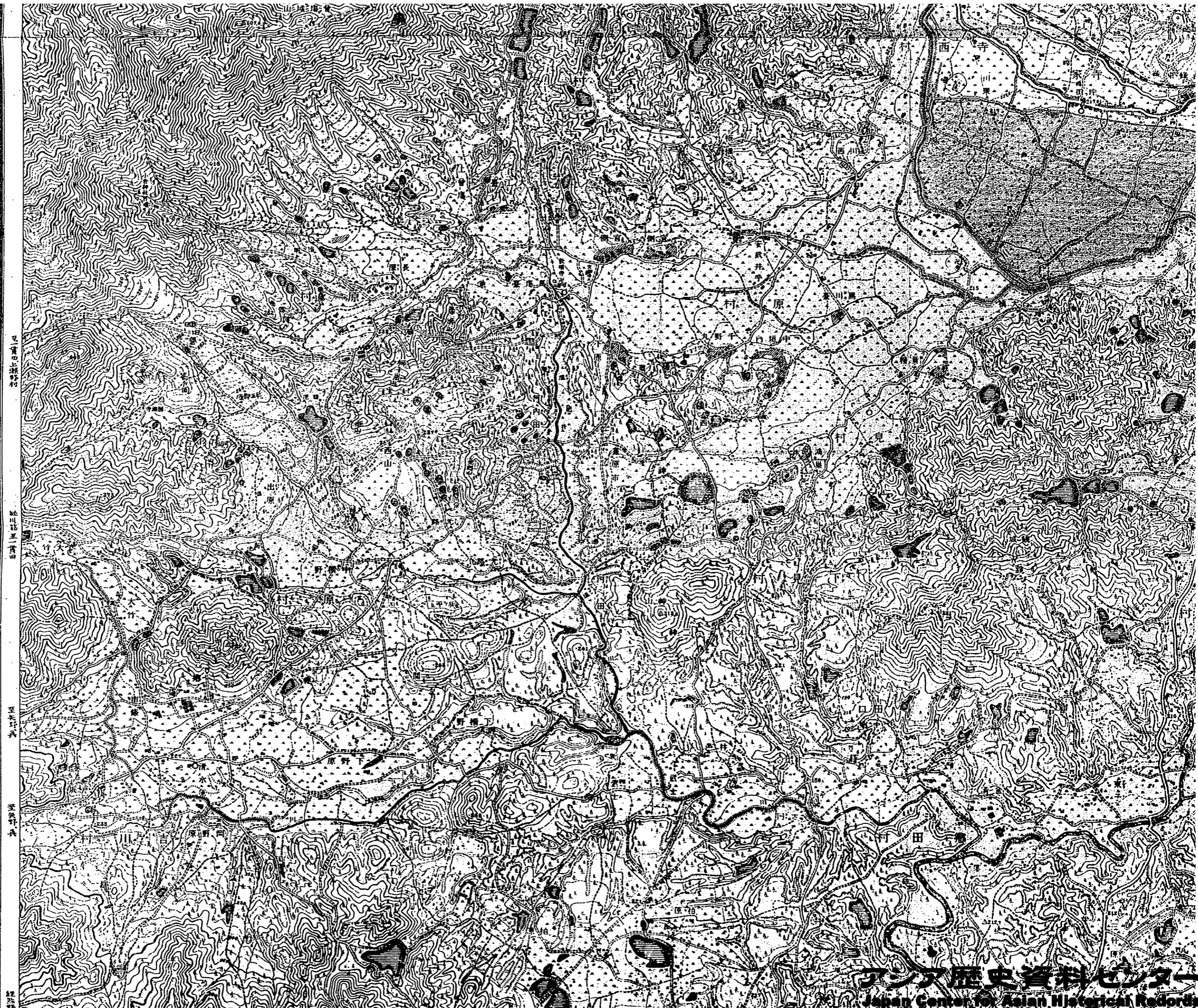
0618

0619



原村附近

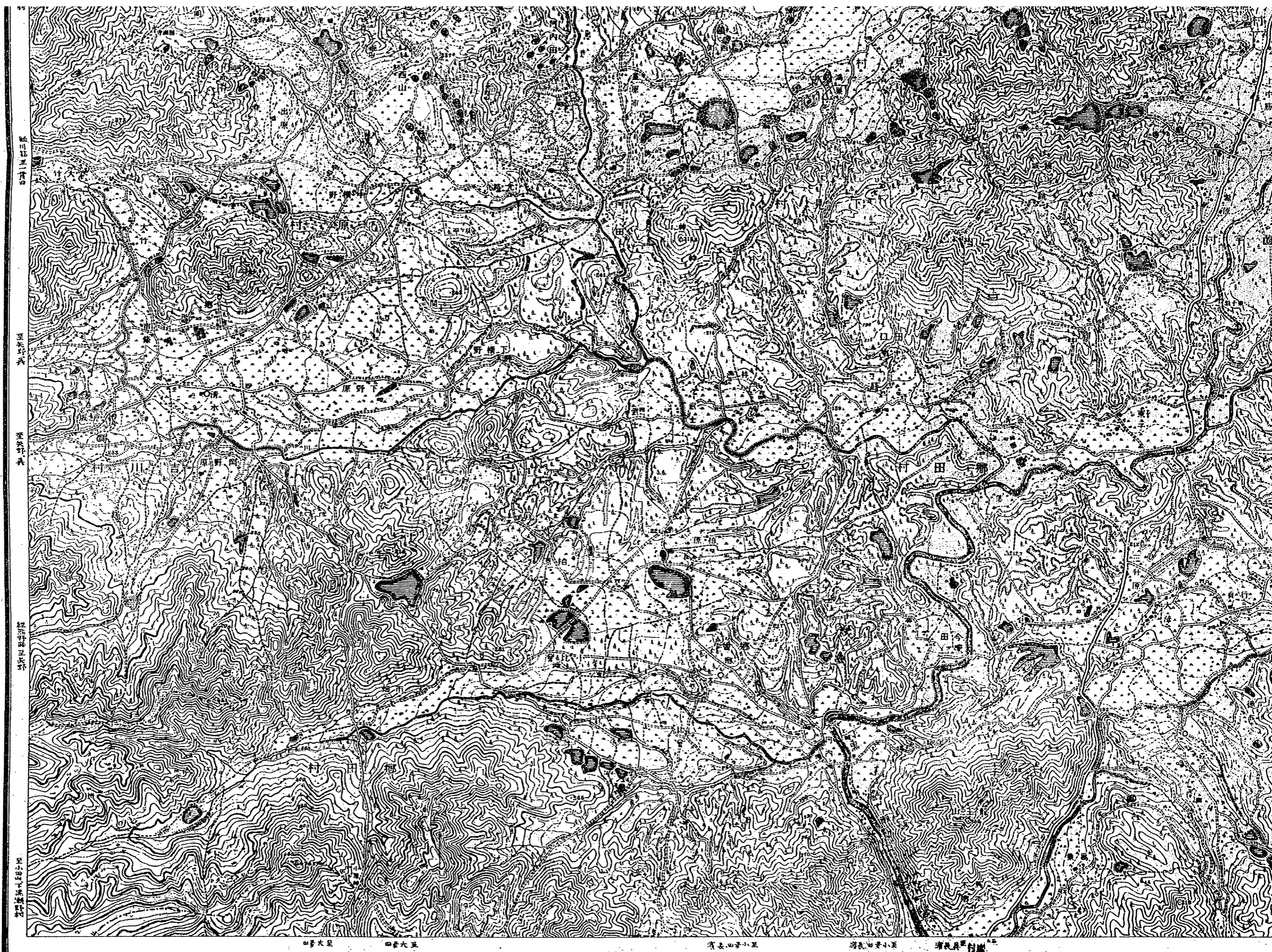




至三寶山
至三寶山
至三寶山
至三寶山
至三寶山



山形県
至三津町
至三津町
至三津町
至三津町



北山北二丁目

西平野

西平野

西平野

西平野

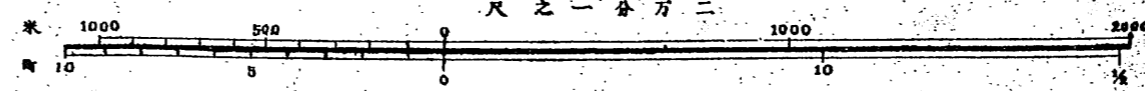
西平野

西平野

西平野

西平野

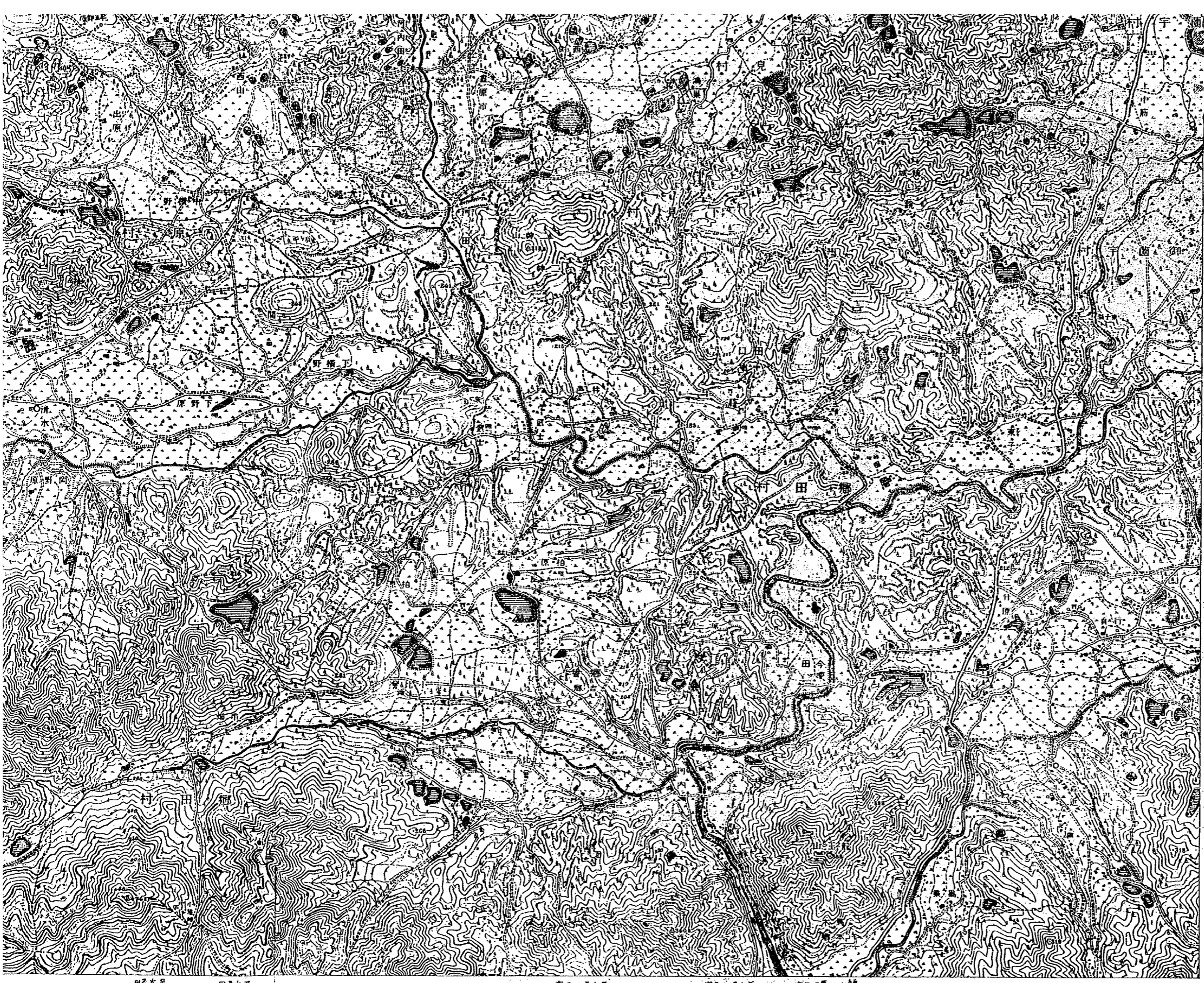
西平野



アジア歴史資料センター

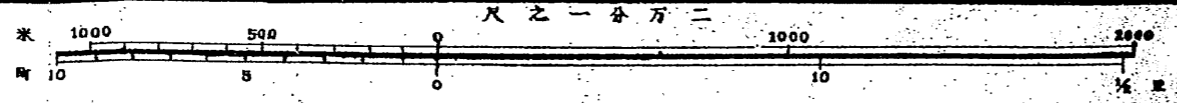
Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>



北緯卅五度
至水師
至三津町

田原大庄 田原大庄 濱長田原小庄 濱長田原小庄 濱長田原小庄



アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

第三課

佐空第一五〇號

大正十一年六月 日

佐建保海軍航空隊司令

海軍省軍務局第三課長殿

別紙寫御參考迄

右送付々

記

一 大村灣ニ於ケル漢船其他調査ノ件

一 廣尾島島下ニ於ケル飛行場標地ノ件

一 廣尾島飛行場標地ノ件ニ付圖ニ御用滿ノ上御意ヲ檢査スル事

軍第〇一〇〇號

陸軍省軍務局第三課長殿

海

軍

飛行場

0620

十水第一四六九號

大正十一年六月一日

外務部

佐世保海軍航空隊司令

金子海軍大佐殿

大村海軍大佐殿
於此漢船其他調查一件

量表御未之廳之際
御調査カニ標記一件別

紙一通之有之候

0621

瀬川村	大草和	亀岳和	長浦和	村松和	時津村	長興村	伊木和	大草村	喜々津村	村名
	一	一	一							漢
	五	八	八	五	五	四	一	六	六	船
二	〇	五	八	五	九	七	六	一	一	敷

0623

合計

之 四 二 艘

一、大田浦に於ける交通運輸ノ状況

ハ、舊船ヲ起真トシテ大田浦ヲ経テ東彼宮田及早岐ニ至ル

發動船(普通)一航(往復)

只、長浦ヲ起真トシテ和松ヲ経テ時津至ル船(普通)二航(往復)

ハ、和松ヲ起真トシテ時津ヲ経テ東彼大田ニ至ル船(普通)一航(往復)

ニ、大田ヲ起真トシテ大田ニ往復スル航路(普通)一航(往復)

ホ、瀬戸村ヲ起真トシテ徳島ニ至ル航路(普通)一航(往復)

ヘ、瀬戸村ヲ起真トシテ尾島ヲ経テ徳島ニ至ル航路(普通)一航(往復)

以上四航路即

0624

村名	三浦和	駿田和	大和	大和町	西大村	牛杉村	福重村	松原和	千綿和	彼杉和
隻数	三	一	一〇	一	一五〇	五	一	四	四	三九
村名	川棚村	宮和	廣田和	早岐和	江上和	崎針尾和	計			
隻数	二四四	九	三	一五	六五	三〇	一五二			

0625

大村湾の於ける交通運輸ノ状況

三浦船田大村より小廻船或ハ漁船ヲテ日用品買入或ハ
少者販賣ノ爲メ大村所ニヨリ數回往復シ去大村
西大村より漁船ヲテ其島へ耕作及郵便物送付有
毎日定期及臨時ニ數回交通シ居リ

以上 赤坂村

0626

相成り突然し御懸り共其即りたる陸奥
 飛り場候御地多し有之共其地御懸者上
 將來飛り場少敷置候下共其候即りたる
 大分後候御地より春日守一 春日守地少敷置
 少敷置 予より向御屋所 御屋 南方 置候
 御り候御地御懸者絶御地 御屋所 在御隣和
 か七い置候者三々竹歩の御り場御地出来 予の御り
 予より置候の予置候は其本軍下置候 有御懸者
 御中御り候御地の際 其御り場御地御懸者
 中七置

一
 一

考高要系沿岸より大坂高知徳川氏所有の津方廻
 り福島の志布志大崎横瀬物原皮足方面より
 舟上より以權利を得たる所所有之陸上は五〇万坪以上
 の敷地ありて其の大半は中津藩にあり
 借地料は減額より年三〇日一五〇日位時價に當
 四五十四一七八日位西の邊に非實地は津藩所有あり
 津藩領ありて其の大半は中津藩にあり
 右等事ありて中津藩にあり
 五月廿日
 新編 水田 音吉
 津藩領海軍 津藩領あり

0628

供覽

軍務局

第三課

爲替

大正十一年六月九日

軍務局長

佐鎮參謀長宛

鹿見島縣下飛行場候補地ニ関スル件

本件ニ関シ別紙甲ヲ願出ニ對シ同乙ヲ

一通田答致置候條御了知相成度

右爲念通報ス

別紙三葉添

終

軍第〇〇〇號三

海軍

模造平葉十一行紙

飛行場

0629

軍第000號 三

大正十年六月九日

發布警務令第三號

佐官隊令令

津島島村下飛り場候補地因回ノ件

佐官才五〇号送付ノ件ハ本件及返却候者本件ニ关シテハ当方モ全
手件出ラ下リ之ヲ元回ル事第〇号ヨリ當附参考件宛為急回報
件ハ存申候

(終)

模造半葉十一行野紙

(清林小)

0630

海軍

軍務局

陸軍省
第六〇三號

大正十一年五月三十日

軍務局

臨時海軍航空術講習部

二五、附一

海軍省軍務局 御中

第三課

飛行場候補地ニ關スル照會移牒ノ件

鹿兒島縣會議員永田良吉（同縣肝屬郡大始良村）ナル者ヨリ別紙^添入如^キ書面當
部ニ到着致候條御參考ノ爲メ

右 移 牒 ス

追テ斯^レ如^キ事柄ハ直接海軍省へ差出ヌヘキ旨當部ヨリ本人へ申遣置
候

（別紙添）

右件別紙ノモト全一件

第六〇三號

海軍



0631

字

大正十一年五月二十二日

縣會議員 永田良吉

霞ヶ浦海軍航空隊 御中

拜啓突然失禮ナル御願ニ候ヘトモ當肝屬地方ハ三萬町^ノ如^ク一萬町ノ田地、一萬町ノ原野五萬町ノ山林有之此上西ニ鹿兒島灣、東ニ有明灣アリテ海陸共飛行場候補地澤山有之候間航空隊^増場設ノ時ハ當地方へ御設置ナシ被下候様御助力願上候大刀洗ニ御願ヒ申上候處實地踏査ノ結果七月下旬飛行演習本郡鹿屋町笠原ニテ御實施決定致シ候目下借地モスミ工事中六月十日曠工事完了ノ豫定ニ候、右飛行場ハ費用ハ鹿屋町支出隣村郡後援ニテ將來海陸軍用ニモ勝手御使用御願ヒ申上候二百五十町歩ノ中央現在ハ三十餘町歩ニ候借地料一反當三四圓

地講機密第一、〇類

一尋 一置

0632



海軍省副官

軍務局

第三課

大正十年五月廿六日

發布済

11. 23. 印刷

岩村

海軍省第十一行

飛行場



永田良友

海軍省副官

大佐良村

五月二十日附市書面、經今課傳來、三記、
貴方面之軍用飛行場使用、必要ヲ生ズ
ル中、又不斗候之現在、既ニ飛行ノ界、
無ク候事、由テ封鎖成ニ及
右田良友

没?

（略）

軍第〇〇號

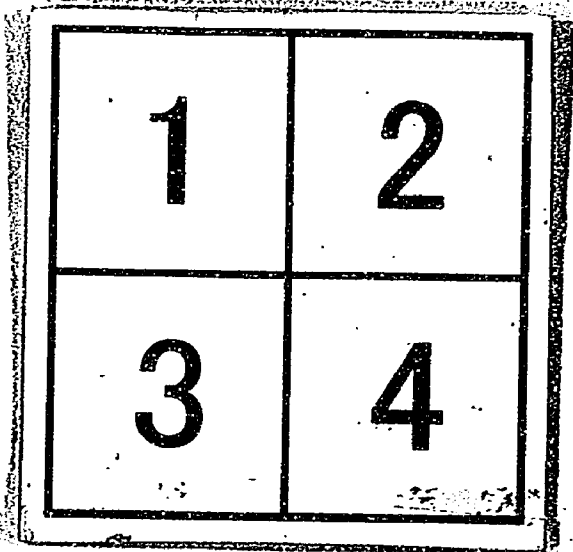
海軍

5-23



0634

分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A 3 版 以 上 の た め</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

0636 0637

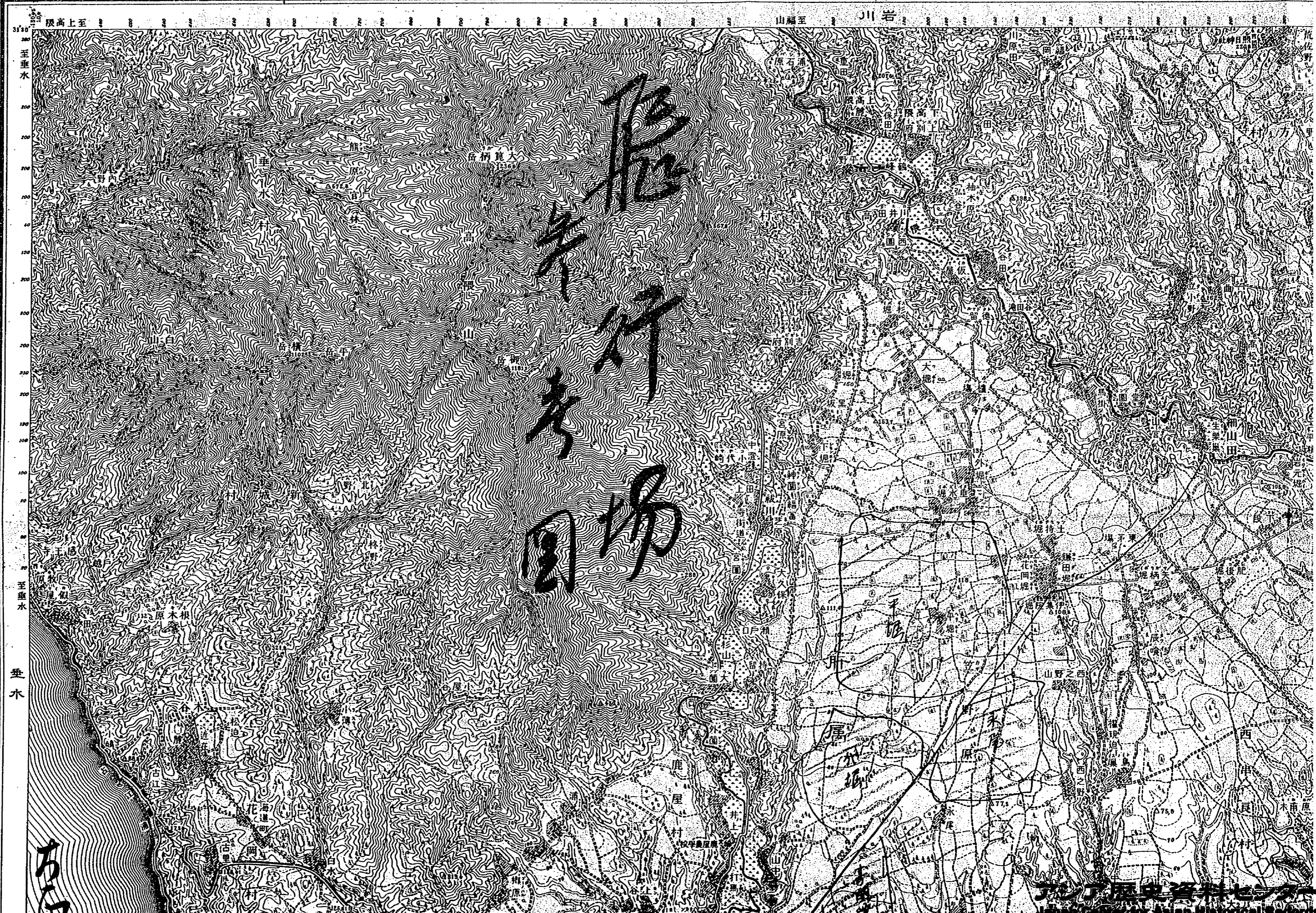
0638 0639

島見鹿	川岩	吉木
水垂	志布志	
嶽開開	元城	浦之内

鹿屋

- 號符
- 6 據望軍海 n 祠神
 - o 所造製 2 宇佛
 - x 庫藥火 5 署公
 - o 房車水 + 堂教西
 - 工 堀工坑 m 轄所軍陸
 - 工 堀坊柱木 m 轄所軍海
 - 工 堀鐵 ⑤ 部令司國師
 - 工 堀水 ⑤ 部令司國旅
 - 工 堀板 ☆ 備警署要部令司隊
 - 工 堀竹 ☆ 備警區隊部令司隊
 - 工 堀生 ⑤ 府守鎮
 - 工 堀土 ⑤ 及縣道廳縣府
 - 工 堀水 ⑤ 及島島所設部
 - 工 堀地 ⑤ 所役市
 - 工 堀居島 ⑤ 及島役村町所役區
 - 工 堀龍燈 x 校學
 - 工 堀碑念記 ⑤ 院病
 - 工 堀界 ⑤ 及院府廳全府編碼
 - 工 堀樹立獨 x 除兵憲
 - 工 堀竹瓜 x 署察警
 - 工 堀樹出抽 ⑤ 及院府廳所役區
 - 工 堀突烟 ⑤ 獄監
 - 工 堀點角三 ⑤ 關稅
 - 工 堀標準水 ⑤ 備警署稅署役及
 - 工 堀點高標立樹 ⑤ 署區林
 - 工 堀山 ⑤ 司賣專
 - 工 堀城城 ⑤ 司信電便郵
 - 工 堀山火 ⑤ 司便郵
 - 工 堀泉礦 ⑤ 司信電
 - 工 堀場蓄貯木材 ⑤ 司換文話電
 - 工 堀地曠採 ⑤ 所候測
 - 工 堀道 ⑤ 道國
 - 工 堀道 ⑤ 道縣
 - 工 堀道 ⑤ 道里
 - 工 堀道 ⑤ 徑小
 - 工 堀道 ⑤ 通子車者
 - 工 堀道 ⑤ 木曲
 - 工 堀道 ⑤ 線電

明治三十五年測圖大正六年鐵道補入



鹿屋新考

大正十年八月二日

鹿屋

鹿屋縣 大隅國 鹿屋郡 鹿屋

山福至 川岩

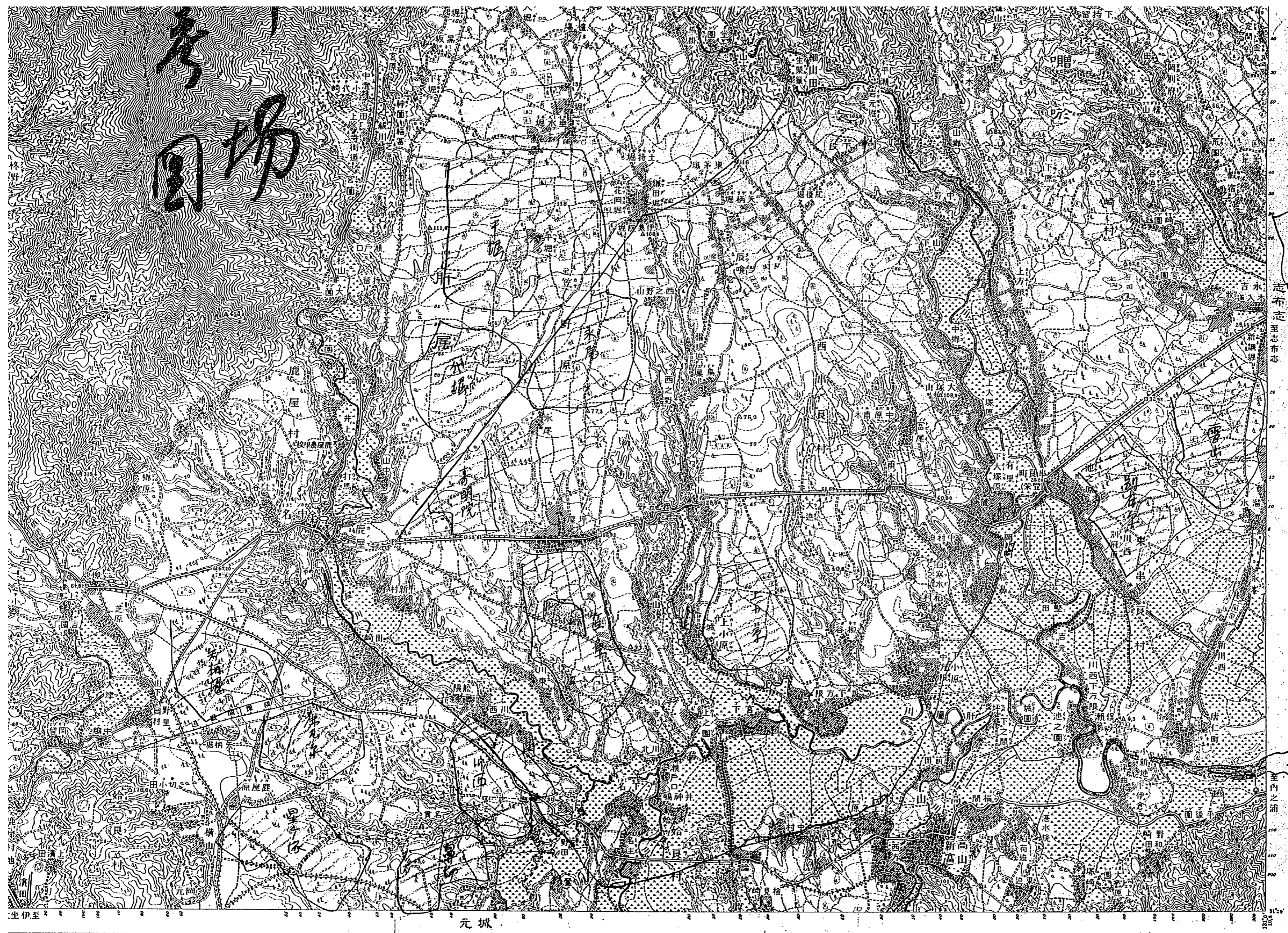
五万分一地形圖鹿屋島四號其十六面

鹿屋飛行場

鹿屋

志布志至志布志

秀國場



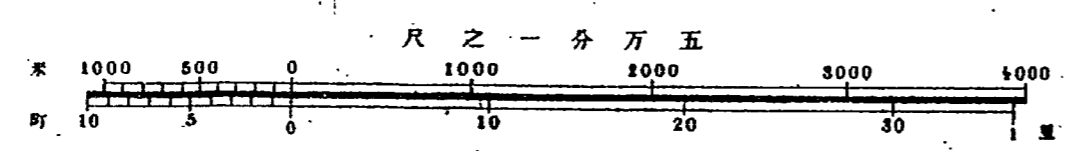
善田子

定布志 至志布志

橋邊

有明橋

圖外右肩ノ地石ノ本圖所屬三十分一圖ノ名號ナリ
真高ハ東京灣ノ中ノ地ヨリ起算シ米突ヲ以テ示ス
至内之浦



佐空機密第九一號

大正十一年六月十日

軍務局

第三課
第一課
高橋軍務局第三課長殿

陸軍省海軍航空隊司令

寫真送付件

一 修世保取宜隊廳舎寫真 一 系
一 修世保取宜隊第三格納庫基礎工事寫真 一 系
右送付之

(副) 寫真二系

建築本部



第一部長



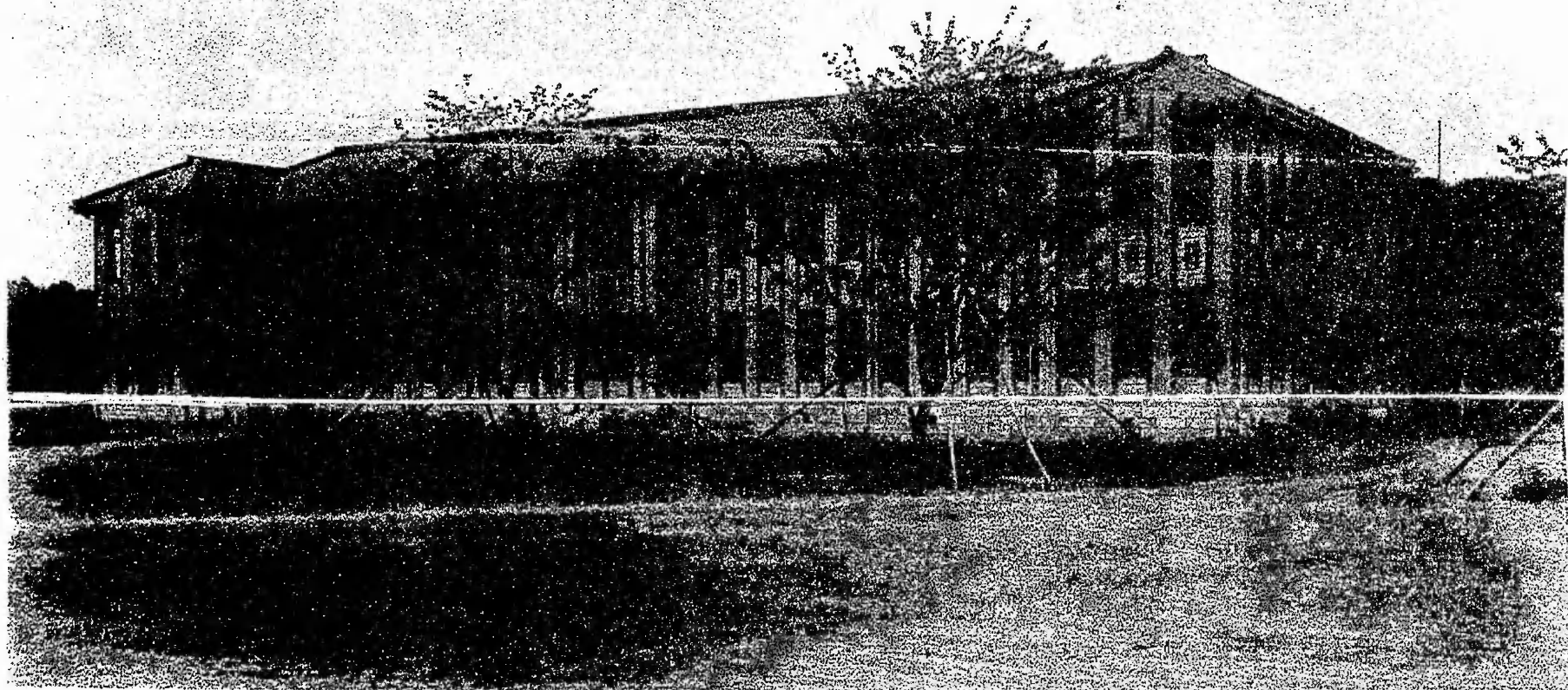
軍務局

第三課



總

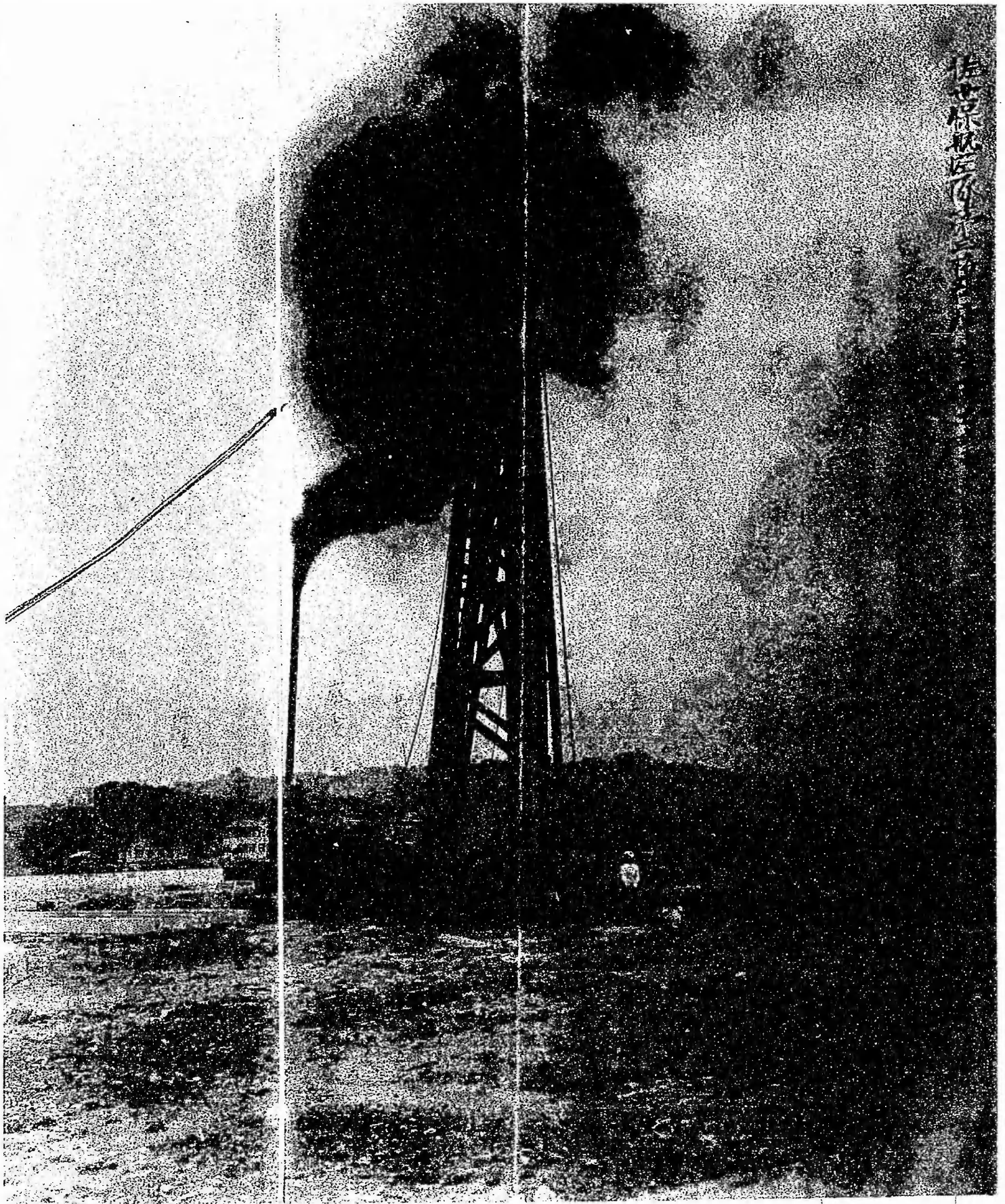
佐保町立歴史館



アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>



佐世保製紙工場

0642

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

軍務局 第三課

海軍

佐藤 機務局 二ノ一六

大正十一年十一月十一日

軍務局 第六十八

梁山 佐藤 保德 守 存 参 謀

大瀧 海軍省 軍務局 員 毅

佐藤 保德 航空隊 上陸場 之 關 係 件

軍務機密第一〇五八號御照會ノ本件ニ關シテハ
當建築部長不日上京ノ豫定ニ付其ノ節
同部長ヨリ本府ノ意向申述スルノ候
右回答ス

(終)

軍務局 機密第一〇五八號

0643

第三課

去_レ上年十月八日

柴山佐鎮考課丸

發布済 二一、一、一七

古_レ考_レ内_レ名

佐官傳ノ上陸場ニテスル件

本件ニテハ 青ニテ日付佐鎮様考才ニテ号ノ五三ニテヨリ昔_レ所_レ長_レ良_レヨリ
上_レ年ノ次_レ才_レ有_レ々々_レ処_レ多_レ候_レ建_レ案_レ本_レケ_レヨリ_レ初_レ因_レ事_レノ_レ改_レ乙_レ事_レ
此_レ案_レ有_レ々々_レニ_レテ_レハ_レ兼_レ三_レ上_レ字_レノ_レ抄_レ心_レ見_レ之_レ下_レ一_レ次_レ當_レ村_レ
ノ_レ考_レニ_レ村_レ无_レ心_レ意_レ向_レ先_レヲ_レ以_レテ_レ而_レ于_レ得_レ置_レ交_レ
右_レ等_レ今_レ云_レス

機密 第一〇五

海軍 別圖 佐官傳上陸場改修ノ件 〇一八 〇一七 〇一六 〇一五 〇一四 〇一三 〇一二 〇一一 〇一〇 〇〇九 〇〇八 〇〇七 〇〇六 〇〇五 〇〇四 〇〇三 〇〇二 〇〇一

(納原裁)

0644



佐世保航空隊飛島上陸場新設工事設計概算書

陸海軍第十三行軍統

事項	構造	数量	金額	記
岸壁	コンクリート及石垣	約一五〇〇	一五〇〇〇	最大千潮深十六岸壁、指針繫船柱
埋立		三八七	二三二六二	最大千潮面以上十七
石垣		二〇〇	三七八〇	
護岸工	檢石均シ	四二七	六四〇五	一割五分均シ方
路舗工	コンクリート工	一〇五	一八九〇	堤南長三十五、中三三、厚五、直路延長三百四十、中三三、厚三、
砂利敷		五	一〇二	
先端突堤敷	コンクリート塊	八	一、二〇〇	
給水設備		三一	七、八七五	
圍燈電話設備		三四	一、七二五	
計			六二、一五七	

海軍

(小計)

0645

軍務局

第三課

第一課

大正十一年三月六日

發布濟一二四

佐室隊司令宛

古夫ノ云

凡5機物即用以軍械動力等垣設ニ至ル件

如件ニ至リ佐室機庫才一六三キヲ以テ前司令ヨリは兼坂了隊 飛行
上ノ見地ヨリ附近ニ不時着陸場ヲ有スルハ最モ望ミニキルナルモ素テ大村
夜軍隊ハ現佐室隊敷地ヲ垣立テ陸上飛行場アル代リニ選定セシメ
位置ニテ事ニ至ラズ事ニ至ラズ事ニ至ラズ事ニ至ラズ事ニ至ラズ事ニ至ラズ

軍務
機密第0六五號
上

海軍

(納原 裁)

換造半葉十一行單派

0646

模造半葉十一行罫紙

着陸場ヲ持ニ設ルニ必要ノ程ニ決テハ 聊疑我ヲ有ル次方ニ有テ大
ニ于善ノ関係等ニ何等制限ナキ場合ハ 勿論之ヲ 御津前ノ至善見
積索ニヨリ約ニ五〇〇ヲ 勿ニ文知在ニ方ニ 昨陸整備書ニ 綿延路大トナ
今日換金路ノ文知ニ目下予定計画中ノ 勿物カヲ 概性ニセサルニ方ニ 甚痛
下地ノ本問題ハ 勿下直ニ 善地ニヨリ 他日佐室隊敷地埋築工事
實現ノ場合ニ 取違ノ途加テ 善利ト書リスルコトニ 現在ハ 已
架立作場ヲ 記す域止テ 地下作トスルコトニ 致せん奉此ヨリ 評相成
カ

右田答ス

終

(納原様)

海軍

0647